

1 研究開発プロジェクト名:

地域特性に合わせた地域における人とくらしのための支援計画

2 当該年度の研究開発プロジェクト実施予定期間:

2018年4月1日から2023年3月31日 / 5年計画の1年目

3 応募者

氏名	飯島 康典
所属機関	一般社団法人 上田薬剤師会
所属部局	
職名	会長

4 研究開発プロジェクトの概要

日本の総人口は、2060年には9000万人を割り込み、高齢化率は40%近い水準になると推計されている。日本の少子高齢化は年々深刻化しており、現在の我が国の医療・介護サービスの提供体制のままでは十分対応できないと見込まれており、少子高齢化の対応策が喫緊の課題となっている。

医療・介護の改革では、高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを地域において総合的に確保することで地域における適切な医療・介護サービスの提供体制を実現し、患者の早期の社会復帰を進め、住み慣れた地域での継続的な生活（地域完結型）を可能とすることを掲げられている。

地域内の限られた医療リソースの中で地域に合わせた地域医療の実現が理想である。地域医療を支援する上で、情報通信技術やシステムを利活用しつつ地域に合わせた医療体制を構築する。具体的には、離島・中山間部でも安定した医薬品供給に関する物流の最適化、処方薬の有効性評価及び副作用に関するデータベースの構築、各住民の健康情報に関するデータベースの構築、多職種連携ツールの構築、医薬品の品質評価、遠隔健康相談システムの構築、医療従事者を含む地域デジタルリテラシー向上研修など、長野県上小地域<sup>( )</sup>でモデル事業を行い、検証及び評価を行う。地域内の限られた資源の中で医療提供を効率化しアウトカム評価し、医療機関にフィードバックすることで医療の質の向上及び医療費の適正化に寄与する。

また、健康の維持増進・疾病の予防から能動的に住民にアプローチすることで疾病の重症化を防ぐことができ健康寿命の延長を期待でき、健康で住み慣れた地域での継続的且つ活動的な生活の実現を可能にする。得られた健康情報や医療評価情報を行政、医療機関や製薬会社などにフィードバックして疫学的・産業的に二次利用できるようにする。

データの有効活用のために解析においてAIを将来的に導入する。

初年～2年：仕様構築構想検討会 3年：試用モデル作成 4年試用 5年評価

( )長野県上小地域内の一般社団法人上田薬剤師会は、医薬品品質評価が可能な検査センターを有する数少ない地域薬剤師会であり、処方箋集中率は平均33%（全国平均75%）であり処方箋医薬品だけでなくOTC医薬品、医療材料及び衛生用品など幅広い医療介護関連商品を在庫している薬局群を形成している。倫理審査委員会を開くことも可能である。